

数学 (文系方式)

(問題)

2021年度

〈R03153619〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は4～8ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- (4) 分数形で解答する場合の分母、および根号の中の数値はできるだけ小さな自然数で答えること。
- (5) 問1から問5までの ア , イ , ウ , …にはそれぞれ、-59, -58, …, -2, -1, 0, 1, 2, …, 58, 59のいずれかが当てはまる。次の例にならって、マーク解答用紙のア, イ, ウ, …で示された欄にマークして答えること。

例 アに3、イに-5、ウに30、エに-24、オに0と答えたいとき。

	-	十の位					一の位										
		1	2	3	4	5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
イ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
ウ	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

【問 1】

- (1) 8人のメンバーで、2人組（ペア）を4組作る方法は n 通りある。 n を100で割った商は で、余りは である。
- (2) 8人のメンバーで、2人組（ペア）を4組作って、ある作業に取り組んだ後、同じ8人で次の作業に取り組むペアを作るために、くじ引きをした。このとき、8人全員がくじ引き前と異なるメンバーとペアになる確率は $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$ である。ただし、くじは公平でどの2人もペアになる確率は等しいものとする。

【問 2】

(1) 次の連立不等式の表す領域の面積は $\frac{\boxed{\text{オ}} \sqrt{\boxed{\text{カ}}}}{\boxed{\text{キ}}}$ である.

$$\begin{cases} \log_4 y + \log_{\frac{1}{4}}(x-2) + \log_4 \frac{1}{8-x} \geq -1 \\ 2^{y+x^2+11} \leq 1024^{x-1} \end{cases}$$

(2) 3 辺の長さがそれぞれ 5, 16, 19 の三角形の面積は $\boxed{\text{ク}} \sqrt{\boxed{\text{ケ}}}$ である.

(3) n 進法で $2021_{(n)}$ と表される数が、素数であるような n の最小値を十進法で表すと $\boxed{\text{コ}}$ となり、合成数である (素数ではない) ような n の最小値を十進法で表すと $\boxed{\text{サ}}$ となる.

【問3】

自然数 n について、連立不等式

$$\begin{cases} x \geq 0 \\ \frac{1}{4}x + \frac{1}{5}|y| \leq n \end{cases}$$

を満たす整数の組 (x, y) の個数は、 $n = 1$ のときは であり、 n の式で表すと、

$$\text{ス} n^2 + \text{セ} n + \text{ソ}$$

となる。

【問 4】

不等式 $(x - 6)^2 + (y - 4)^2 \leq 4$ の表す領域を点 $P(x, y)$ が動くものとする。このとき、 $x^2 + y^2$ の最大値は $\boxed{\text{タ}}$ + $\boxed{\text{チ}}$ $\sqrt{\boxed{\text{ツ}}}$, $\frac{y}{x}$ の最小値は $\frac{\boxed{\text{テ}} - \sqrt{\boxed{\text{ト}}}}{\boxed{\text{ナ}}}$, $x + y$ の最大値は $\boxed{\text{ニ}}$ + $\boxed{\text{ヌ}}$ $\sqrt{\boxed{\text{ネ}}}$ となる。

【問 5】

半径 $r_1 = 2$ の円 O_1 に接する平行でない 2 つの直線がある．接点を A, B とし、2 つの直線の交点を P とし、 $\angle APB = \frac{\pi}{3}$ とする． O_1 より半径が小さく、 O_1 の中心を通り、直線 AP と直線 BP に接する円を O_2 とする．同様に自然数 n に対して、 O_n より半径が小さく、 O_n の中心を通り、直線 AP と直線 BP に接する円を O_{n+1} とする．

O_n の半径を r_n とするとき、 $\frac{r_n}{r_{n+1}} = \frac{\boxed{\text{ノ}}}{\boxed{\text{ハ}}}$ となる．

次に、 n 個の円 O_1, O_2, \dots, O_n の面積の和を S_n とするとき、 S_{10} の整数部分は $\boxed{\text{ヒ}}$ である．

【以下余白】